まちのわだい
Town Topics

まちで行われたイベントや、学校・各種団体の活動などを紹介します

身近な情報をお待ちしています。
市まちづくり振興課 広報くじ
担当 TEL52-2116 ／ FAX52-3653

1／ケーキを前にみんなでバンザイ！
2／短角牛のベゴ汁と丸焼きに長い行列ができました
3／大人気だったアワビのバター焼き

全長５㍍のケーキに笑顔
北三陸くじ冬の市

12月23日と１月13日、北三陸くじ冬の市が市街地周辺で開かれ、延べ3,200人が来場。寒さ厳しい中、会場は大いににぎわいました。12月23日の「行く年くる年市」は、アワビの格安販売に販売開始１時間前から並んだ人を先頭に約200人が長蛇の列。わずか10分で完売の人気でした。また、全長５㍍のクリスマスケーキ作りに小学生ら約30人が挑戦。生クリームだらけの顔で歓声を上げながらきれいに飾り付けました。村田日菜子（ひなこ）さん（久慈小５年）と弟の在音（あると）くん（同３年）は「フルーツがたくさんでおいしい！」と完成した色鮮やかなケーキに笑顔でした。

１月13日の「厳冬市」では、お買物券付きもちまきや神楽舞いなどが行われ大盛況。また、歴通路うまいもん横丁では、山形村短角牛をはじめ、地元の食材を使った料理が集合し、来場者は久慈の味覚を楽しんでいました。

鏡開きで気持ち新たに―
三船十段記念館で鏡開式

１月13日、三船十段記念館（山下豊弘館長）で寒稽古を締めくくる恒例の鏡開式が行われ、小中学生約60人の同館道場生が参加しました。

この日は、準備体操に続き紅白戦を実施。試合を見守る道場生や観客席の保護者らは、本番さながらの試合に熱い声援を送っていました。

紅白戦が終わると、きねとうすが柔道場に運び込まれ、恒例のもちつき。道場生は慣れない手つきながら力強くきねを振り下ろし、順番にもちをつきました。紅白戦の間に父母の会が準備したお雑煮とつきたてのもちを使ったおしるこで身も心も温まった道場生は、今年の大会に向け気持ちを新たにしました。

「ヨイショ！」と元気にもちをつく道場生

広報リポーターの突撃取材！

みずきかざりで交流―

色とりどりにミズキを飾る参加者

１月12日、大川目公民館と大川目町老人クラブ連合会が小正月行事を開催。小学生や地域住民63名が交流を深めました。ついたもちはあんや雑煮で頂き、色とりどりに飾ったみずきに一年間の「無病息災と豊作」を願いました。（小倉利之リポーター）

珍しい手旗信号体験―

手作りの手旗で送信する子どもたち

１月９日、冬休み子ども教室で夏井公民館に児童が集まり、ロープワークや手旗信号を体験。手旗では、離れたところでも腕の動作で話ができることを知り、「アケマシテオメデトウ」の送信など、珍しい体験をしました。（梅沢政隆リポーター）

被災者のためボランティア
東高生が仮設住宅で雪かき

１月17日、久慈東高校（金澤広利校長）の福祉協力委員の２年生10人が、小久慈町の応急仮設住宅で雪かきのボランティア活動を実施。周辺の雪はきれいに脇に寄せられました。副委員長の下道優海（なるみ）さんは「活動は被災者のためになることなので、雪が降ったらまた雪かきに来ます」と笑顔でした。

一生懸命に雪をかき、汗を流す生徒たち

一年の決意を表明する熊谷好行隊長

死亡事故・飲酒運転撲滅を
市交通指導隊が点検式

市交通指導隊の点検式が１月７日、市役所前で実施されました。山内隆文市長らの点検を受けた熊谷好行隊長は「市民が交通死亡事故に巻き込まれないよう、また飲酒運転の撲滅に向け活動に取り組むことを誓います」と決意表明。隊員たちも活動への誓いを新たにしました。

赤ソバの香りを楽しむ
市農委が遊休農地解消

市農業委員会（宇部繁会長）は12月26日、小久慈町の遊休農地約18㌃を活用して栽培した赤ソバの試食会を市内催事場で開催しました。鹿糠勇・遊休農地解消事業実行委員長は「不作でしたが、十分味わっていただきたい」とあいさつ。参加者は赤ソバの香りを楽しみながら味わっていました。

収穫した赤ソバを味わう参加者

「光の実」を生け垣に設置する参加者

駅前をやさしい光照らす
三陸イルミネーション

北三陸くじ冬の市実行委員会は12月23日、久慈駅前で三陸イルミネーションの点灯式を実施。親子連れなど約50人が参加し、生け垣などに「光の実」を設置しました。「光の実」は電球と電池が入った袋に子どもたちが絵を描いたもの。その光は駅前と道行く人をやさしく照らしていました。

名付け親、成長に笑顔―
バッタリー村でヤギと交流

12月23日、荷軽部地区子供会の11人がバッタリー村を訪問。２年前に自分たちが名前を付けたヤギ６頭と再会しました。子どもたちはヤギに名札を付けたりワラを食べさせたりと笑顔で交流。木藤古徳一郎村長は「名付け親になったヤギの成長をぜひ見てもらいたかった」とその様子に笑顔でした。

名付けたヤギに自分で名札を付けました

寄付金を手渡す野見山所長（右）

継続の気持ちを大切に
日本地下石油備蓄が寄付

12月14日、日本地下石油備蓄㈱久慈事業所（野見山哲夫（のみやまてつお）所長）は社員から募った11万4,770円を市社会福祉協議会に寄付。野見山所長は「継続する気持ちを大切に、来年も寄付金を積み上げていきたい」と意欲を語りました。募金は歳末たすけあい義援金や地域支えあい活動に活用されます。